

(8) 那珂川の水生生物の保護について

想定課題

国会等の移転に伴う人口増加により、那珂川の水環境が変化することも想定されるが、魚類などの水生生物の生息環境への影響はどうか。

対応方向

水生生物の保護のためには、水質の確保、水量の確保、水辺環境の確保と上下流の環境のつながりが必要です。

まず、水質については、下水道整備などによる生活排水等の適正な処理を行うとともに、閉鎖性水域で行われている窒素、リンを対象とした高度処理を検討に加えることで富栄養化を防止し、良好な水質を確保していく必要があります。

水量の確保については、例えば中水道の導入等、水のリサイクル等による節水型都市の整備によって水利用を節約するとともに、都市部においては、雨水の地下への浸透が従来と同様に図られ、地下水がかん養されるよう、透水性舗装や透水性側溝の整備、緑地の拡大を推進し、水の循環利用を行っていく必要があります。

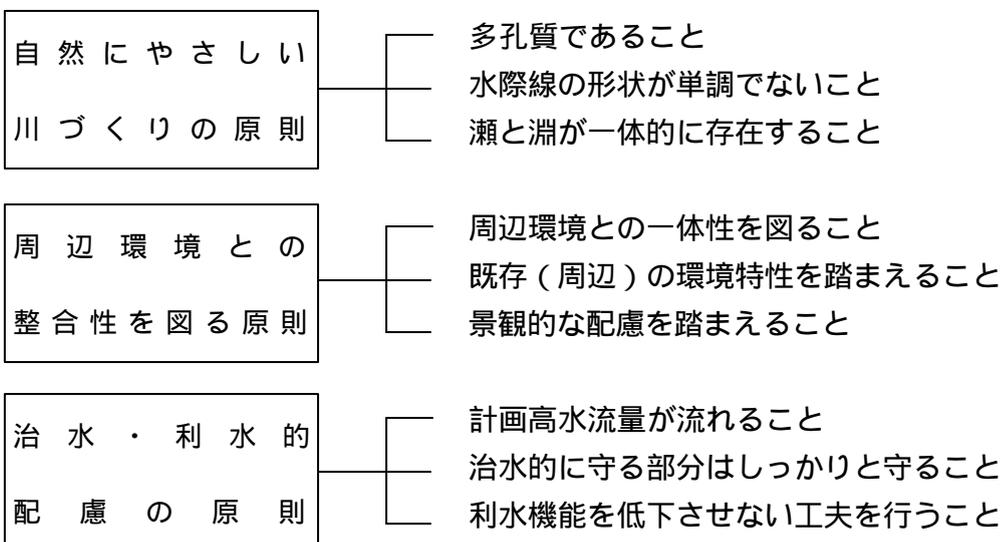
水辺環境の確保と上下流の環境のつながりについては、河川工事により一時的に改変した環境条件を、もとに近い状況に戻す「環境の復元」工事や工事完成後の環境変化を軽減・解消するための産卵場の確保など、生態系の保護・創造を重視した河川環境整備として行われている「多自然型川づくり」を進めていく必要があります。

水辺環境は、人々の生活文化や精神文化の形成に大きな役割を果たしており、人々の安らぎの場でもあります。新都市のコンセプトの1つは、自然と共生した都市であり、建設に当たっても、また都市運営に当たっても、良好な水辺環境と生物の多様性の確保に十分な配慮がされる必要があります。

多自然型川づくりの原則

《大原則》

《原則》



[資料] 栃木県多自然型川づくりガイドライン(案)